

- ・対象地域：古平町
- ・古平町人口：3,188人(127年 国勢調査)
- ・漁港：古平漁港(第3種)
- ・漁業就業者：186人(127年 国勢調査)
- ・漁業経営体：55経営体(130年 漁業センサス)

古平地域マリンビジョン計画

～つながり・みんながでつづける「古平サクセスストーリー」～

＜令和2年3月策定＞

- ### ■ 拠点漁港のタイプ
- 衛生管理流通拠点機能
 - 都市漁村交流拠点機能

拠点漁港



地域の資源等



【位置図】



現状と課題

現状

- 人口・漁業就業者の減少と高齢化
- 漁業資源(回遊資源)の減少
- 水産加工業の生産低下
- 産業分野間の連携(弱いつながり)
- 自動車道開通による都市部とのアクセス向上

課題

- 町民や産業界の「つながり」の強化
- 「町のブランド化」推進による地域価値向上
- 漁港基盤の有効活用
- 町内のたくさんある地域資源の活用
- 地震・津波・原発事故に対する地域防災力向上
- 通過型から滞在型観光地への転換

地域の目指す姿

◆ビジョンの特徴(理念)◆

町民は、自らの創意工夫と豊かな資源、町民同士のつながりの基に、前向きに生きていく良き伝統(サクセスストーリー)を守り、「古平」の価値を高めていく。その成果を町民皆で分かち合うことで「みんな勝ち」を目指していく。

○ 水産業振興に関する構想

- ① 水産物の安定供給体制の確保
ブランドを支える生産体制の確立、水産加工業における地場水産物の活用、新商品開発及び販路拡大
- ② 環境保全と循環型社会の構築
資源管理型漁業の推進、海の環境や漁業への理解を深める総合学習の推進(漁業体験・植樹等)
- ③ 水産物供給基盤の確保(漁港の整備)
衛生管理(ハード・ソフト一体)の推進、つくり育てる漁業の機能強化

○ 漁村地域振興に関する構想

- 地場水産物を活用した産業間連携による地域価値向上、漁港を核とした防災機能の強化

古平地域の将来イメージ



検討の体制

■ 事務局(古平町)

■ マリンビジョン協議会

漁業関係者、加工関係者、農業関係者、商工会関係者、観光関係者、町内会代表者、女性団体代表者、農産物交流グループ代表者、教育関係者、行政関係者(オブザーバー)

推進・フォロー体制

■ 推進体制

東しやこたん漁協、古平町、商工会、観光協会、教育委員会、ふるびら海づくり推進委員会、森林組合、福祉団体、民間団体、地域住民

■ フォローアップ体制

古平地域マリンビジョン協議会
(進捗確認・評価、関係団体への報告)

地域資源(特徴)

- 海、川、森の持つ美しい景観
- 漁業や水産加工業を始めとする産業
- 文字碑や祭り等の人文資源

【主な地域資源等】

- ・多様な水産資源(エビ、ウニ、アワビ、ナマコ、ブリ等)
- ・水産加工品(タラコ等)
- ・ヒメマスの養殖業
- ・漁協祭
- ・聖平神社例大祭
- ・ふるびら温泉
- ・ロードレース大会 等



漁港の将来像

- 環境衛生管理型漁港整備の推進
歴代付き岸壁整備、冷凍冷蔵施設整備、蓄養・増養殖水面整備、活魚センター整備 等
- 大型定置網漁業用の選別施設整備や、外郭施設整備による漁港の安全性・快適性の向上
- 機能毎の「集約」をコンセプトとした漁港の再編整備
・中央・頭用周：水産物生産流通ゾーン
・漁港西部：機能再編ゾーン

ビジョン実現のための主な取組み

- 水産物の安定供給に向けたつくり育てる漁業の推進、特産品PR及び販路拡大の推進
- いまある資源の有効活用と町内閉回路の整備
- マリンビジョンマップ・町内人材バンクの作成
- 漁業を活用した総合学習及び体験活動の実施、出前授業等による食育の推進
- 新たな中心拠点となる観光交流センター(仮称)を核とした効果的な情報発信
- 詳細域を活用した漁業体験やプレジャーボートの利用促進による海業の推進
- 地域防災力の向上に向けた避難訓練の実施、広域連携による防災体制の強化